

陸の水

==== No.69 =====

日本陸水学会東海支部会

ニュースレター（2015年7月31日）

発行：日本陸水学会東海支部会

連絡先：〒432-8561 静岡県浜松市

中区城北 3-5-1 静岡大学 工学部
戸田 三津夫

Tel: 053-478-1146、Fax: 478-1183

E-mail: tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp

目次

- 役員就任のあいさつ（p.1～2）
- 2015年度「サマースクール」のご案内（p.3～4）※申込締切 8/8
- 平成27年度研究助成金の助成先の決定（p.5）
- 談話会
 - ・第27回談話会
 - 「2014年9月27日御嶽山噴火が水環境に及ぼす影響」の報告（p.6～8）
- お知らせ
 - ・会費納入のお願い（p.9）
- 編集後記（p.10）

新任役員のご挨拶

2007-2008年度に幹事を務めて以来、7年ぶりの再登板になります。

この間、河川工学を基盤とし生態学、地形学にも関心を寄せながら、工学、環境学、減災分野を渡り歩き、水流・流砂、水環境、生態系、流域保全、浸水氾濫、水防災などに関する研究に取り組んで参りました。このたび、研究・社会貢献担当を拝命し、分野を透過した「陸水学」の東海地域モデルを構築できればと妄想しています。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

田代 喬

名古屋大学減災連携研究センター

ライフライン地盤防災寄附研究部門 准教授

お役御免になったと思っていましたが、またまた就任です。専門は有機化学ですが、大学キャンパスから 2 km の佐鳴湖に関わることになって 13 年目。最近
は佐久間ダムが抱える問題に関連していろいろな提案をさせていただいていま
す。それが縁で、今夏からダム下流の浜松市天竜区佐久間で「アワビの陸上養殖」
にも取り組むことになりました。いつの日か、サマースクールか研究発表会で佐
久間ジビエと佐久間アワビでみなさまをもてなすことができればと思います。佐
久間ダム堆砂については鉄道による運搬を提案していますが、これと関連して浜
松市の公共交通（LRT：Light Rail Transit）整備と観光振興の市民活動にも参
加しています。様々な話題で会員のみなさまと交流ができれば幸いです。今後と
もよろしくお願いいたします。

戸田 三津夫
静岡大学大学院 総合科学技術研究科
工学専攻 化学バイオ工学コース 准教授

土木研究所 自然共生研究センターの宮川と申します。本年度から庶務幹事と
して、会員名簿のとりまとめを中心に担当させていただくこととなりました。東
海地区の知識、河川研究の知見についてはまだまだ不足している身ではありますが、支部会の運営に少しでもお力になればと思っております。どうぞ、よろし
くお願いいたします。」

宮川 幸雄
土木研究所 水環境研究グループ
自然共生研究センター研究員

・次年度役員体制（任期 2 年間）（*：新役員）。

会長： 谷口 智雅（三重大学）
幹事： 白金 晶子（豊田市矢作川研究所）・広報（HP 管理）
幹事： *田代 喬（名古屋大学）・社会貢献担当
幹事： *戸田 三津夫（静岡大学）・陸の水ニュースレター編集
幹事： 中村 早耶香（名古屋女子大学）・会計
幹事： 新實 智嗣（株式会社 水地盤研究所）・事業担当
幹事： *宮川 幸雄（土木研究所自然共生研究センター）・庶務

会計監査： 内田 朝子（豊田市矢作川研究所） （※ 幹事は五十音順）

2015 年 「サマースクール」のご案内

以下の要領で、陸水サマースクールを開催いたします。ご家族や会員でない方も誘って、是非ご参加ください。

1. 日時： 2015年8月29日（土）13時～ 8月30日（日）14時（1泊2日）
2. 場所： 矢作川支流 足助川周辺ほか
3. 集合場所：リニモ八草駅もしくは名鉄梅坪駅周辺12:00
公共交通機関をご利用の方は、会員の車に便乗。
もしくは、第一目的地 足助「百年草」へ13:00
百年草：444-2424愛知県豊田市足助町東貝戸10 電話0565-62-0100
宿泊は、あすけ里山ユースホテル
444-2419愛知県豊田市椿立町坂27-2 電話0565-62-2462
4. 実習内容：足助川周辺の自然観察会
足助川での生物観察と川遊び、流域観察、天体観測（曇天・雨天中止）、
矢作川支流巴川の水利用の学習
5. 参加費（予定）：
大人一般8,000円、（年金生活の方：6,000円）、学生6,000円、4歳から中学生
まで4,000円、4歳未満無料。ただし、小中学生以下のお子さんは、必ず保護者の
方のご同伴をお願いします。費用には、宿泊代、保険料を含みます。
6. 募集人数：25名程度を上限とし、超過した場合には抽選とします。
7. 申込方法：
氏名（性別、学年）、区分（一般、学生、子供（学年）、4歳未満）、住所、
連絡先電話番号、Eメール、当日の交通手段（自家用車 or 公共交通機関）、集
合場所（集合駅 or 百年草）を記載の上、EメールあるいはFAXにて以下まで
tomo.niinomi@gmail.com （サマースクール行事担当：新実）FAX 0561-56-6140
8. 申込期限：8/8（土）まで

※参加予定者には、後日あらためて詳細な案内を差し上げます。

2015 年度 陸水サマースクール 参加申込書（締切 8/8）

1. 参加者の氏名（学年）を記入し、区分を○で囲んでください。

1：氏名 _____（____）（一般・学生・年金・子供（学年）・4歳未満）

2：氏名 _____（____）（一般・学生・年金・子供（学年）・4歳未満）

3：氏名 _____（____）（一般・学生・年金・子供（学年）・4歳未満）

4：氏名 _____（____）（一般・学生・年金・子供（学年）・4歳未満）

不足の場合は欄を追加してください。

2. 代表者の連絡先：氏名、住所、電話番号、電子メールアドレスを記入してください。

氏名：

住所：（〒 — ）

電話番号：

電子メールアドレス：

3. 現地までの交通手段（該当する方を○で囲んでください）

自家用車 ・ 公共交通機関

※ 実習場所や宿泊場所への移動もありますので、可能な方は自家用車でご参加頂き、乗り合わせにご協力いただければと思います。

※ 公共交通機関をご利用の場合：

平成27年度研究助成金の助成先の決定

今年度は、予算総額 15 万円以内で 5 件以内の調査・研究を採択する予定で募集を行い、高校生の 5 グループから申請総額 311,533 円の応募を頂きました。

対象水域は河川・湖沼・地下水・湧水、調査・研究内容も物理・化学・地学・生物からのアプローチなど幅広いテーマとなっております。応募頂いた書類を 8 名の委員からなる審査委員会において厳正な審査の結果、以下 1 件の調査・研究の助成を決定しましたので、ご報告させていただきます。

研究題目：都市河川における硝酸イオン態窒素の紫外吸収法による分析について
団体名：加藤学園高等学校 化学部
助成金額：49,000 円

東海地域の陸水からやや離れたものや研究調査計画の意図を十分に伝えきれていないもの、なかには応募要項に準じていないものもありましたが、応募された内容はいずれも各グループが熱心に取り組む意気込みが感じられるものばかりでした。今回は予算総額 15 万円以内で 5 件以内の助成でしたが、より多くの審査委員からの評価があり、総合的に評点も高い高校生グループからの 1 件に決定させて頂きました。他の 4 件についても、審査委員の評価が高い課題もありましたが、調査・研究内容が不十分との意見もあり、今回のような結果とさせて頂きました。

助成金の助成先の決定をご報告するとともに、改めて、応募して頂いた方々にお礼申し上げます。

支部会長 谷口智雅（三重大学人文学部）

第27回 東海陸水談話会の報告

2015年4月21日（月）に、名古屋大学の減災館において、第27回東海陸水談話会が開催されました。テーマは「2014年9月27日 御嶽山噴火が水環境に及ぼす影響」で、昨年度の総会時に決定された社会貢献としての研究活動の方針を確認するための話題が提供されました。

はじめに、社会貢献の研究担当幹事である名古屋大学の田代先生から、今回のテーマでの開催に至った経緯の説明と会場となった減災館に関する紹介がありました。減災館は地震を始めとする巨大災害に備え、地域に根差した災害対応を実現すべく昨年3月に建設された建物で、平常時には体感・体験学習を通じた災害・減災に対する学びの場、非常時には大学や地域の災害対応の拠点となることが謳われています。地震動を模擬体験できる設備、各種図面のプロジェクション・マッピングや特殊なメガネを用いて立体視できる地図の展示などがあり、工夫が凝らされていたのが印象的でした。これらの施設は常時（火曜日～土曜日の午後、詳細はHP参照）、一般公開もされているそうです。

その後、三重大大学の谷口会長から挨拶があり、陸水学会東海支部会の説明がなされました。社会貢献としての研究の必要性についても紹介があり、今回の談話会の趣旨説明がありました。特に「こんな研究が必要だ、という意見を出してほしい」というコメントもあり、参加者も含めたゼミ方式の談話会であることの確認は印象的でした。

続いて、田代先生から「御嶽山噴火が水環境に及ぼす影響」について研究する意義や背景などが紹介されました。御嶽山でも南側斜面が崩れやすいことが紹介され、その場所を流域とする濁沢川を研究対象とする理由なども説明されました。また、御嶽山はたびたび水蒸気噴火をしていることに加え、ハザードマップや降灰に対する注意喚起のポスタ



一が紹介されるなど、減災館での開催ならではのアレンジも見られました。また、噴火による水環境への影響として、濁度の上昇と pH の変化の 2 点が挙げられました。

その背景を踏まえて、研究の方向性を確認する話題提供が 3 題ありました。

まず、梶山女学園大学の野崎先生から、付着藻類を対象に噴火に伴う濁りが光障害を通じて影響する可能性についての話題提供がありました。付着藻類をミクロに見たときに、群落の上部と下部で生産性が最大になる光条件が異なることが紹介され、石単位でも陽樹・陰樹的な特性の違いがあることが分かりました。

このことから、濁水による遮光が付着藻類群落の質的变化を生じさせる可能性が理解できました。付着藻類を対象とした生物相の崩壊と回復という過程を長期的な視点で解明したいという意欲的な研究テーマです。特に、噴火に伴う濁りを対象とした付着藻類の変化についての知見はほとんどないようで、社会貢献という応用的な研究目的だけでなく、学術的な研究価値の高さも紹介されました。

続いて、私から濁水が魚類に及ぼす影響についての話題を提供しました。濁りの濃度に対する魚類の応答の知見を概観すると、忌避行動や遡上率の低下などが懸念されることを紹介しました。ただし、これらの知見の多くが実験的な手法によるもので、野外における実証的な研究はなかなかありません。実際の河川において、濁りが魚類の分布に及ぼす影響について少しでも解明できればという思いを紹介しました。

最後に、田代先生から降灰などが河床に堆積した場合の影響について話題提供がありました。灰は微粒子のため堆積しにくいものの、一度堆積すると粘着性がありモルタル状になって長期間保存されることが特徴的であることが紹介されました。河床への堆積によって河床の間隙が減少するため、水生昆虫などの生息場所の劣化が懸念されます。さらに、



その影響が長期にわたることも特異的と言えます。このように、河床への灰などの堆積が水生昆虫などに及ぼす影響について解明する必要性と重要性が紹介されました。また、文献調査の結果紹介では、火山の周辺で人為的な土地利用が重なると、河床への微細土砂の堆積が促進される可能性も指摘され、新しい視点の提供もありました。

以上のように、噴火によって水環境に対してどのような影響が生じて、それがどのくらい継続するののかという視点で研究を進めていく方向性が確認できたように感じました。当日は雨天にもかかわらず 15 名が参加され、行政関係者の方もいらっしゃいました。水質の経時変化についてコメントを頂いたり、現場での問題意識についても教えて頂いたり、実りの多い討議となりました。今後、「御嶽山の噴火が水環境に及ぼす影響」に関する研究は、陸水学会東海支部会の社会貢献活動の一環として展開されていく予定です。土日など、通常の業務の支障にならないように調査を実施していく予定ですので、会員の皆様にもぜひ参加いただければと思います。会場からは、メーリングリストで調査予定を知らせてほしいなどのリクエストもありましたので、今後も引き続き情報提供できればと思います。

(小野田幸生)

- ・第 28 回談話会、見学会は 10 月以降の予定です。

詳細は次号「陸の水」ニュースレター、メール等でご案内させていただきますので、多くの会員諸氏の参加をお待ちしております。

「陸の水」論文集 Vol.70 の発行について

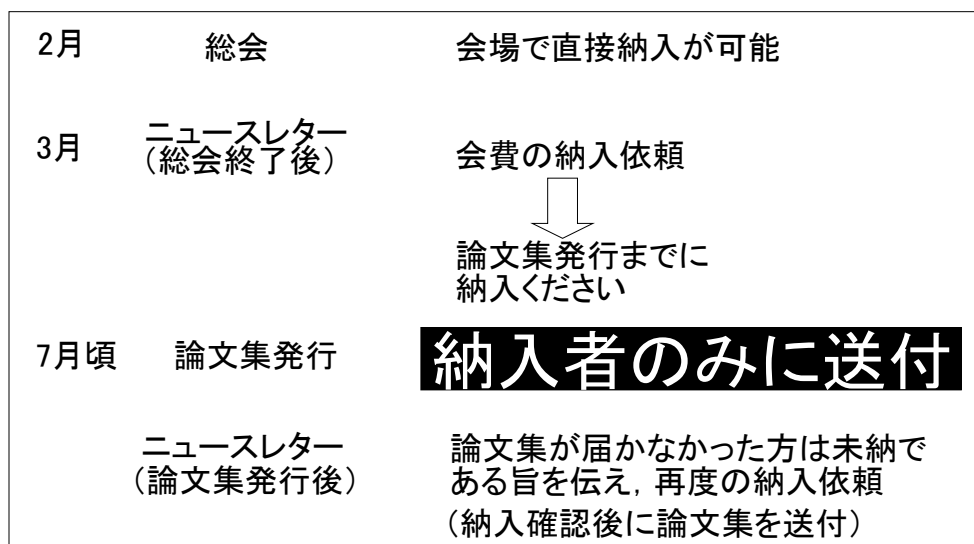
2011 年より、原則として年 1 回の定期刊行となった「陸の水」論文集ですが、今年度から発行時期を 3 月末から 7 月頃に変更しました。2015 年の Vol.70 (通巻 6 巻目) の編集を進めており、間もなく出版される予定です。皆さまからご投稿頂いた論文をより多く掲載するため、野崎編集委員長にご尽力を頂き、編集作業を進めさせて頂きました。当初 7 月刊行予定でしたが、発行が遅れてしまっていることをお詫び申し上げます。

会費納入について

会費の納入が確認できた会員にのみ、論文集を送付することが総会で承認されました。論文集の発行が毎年7月頃に予定されておりますので（本年度は8月予定）、研究発表会・総会（2月）に直接納入をされなかった会員の方は、その時期までに会費納入をお願いします。忘れてしまうことも考えられますので、早期をお願いします。

論文集発行後のニュースレターで、「論文集が届かなかった会員の方は会費が未納である」ことを伝え、再度会費の納入をお願いさせていただきます。論文集の発送までに会費納入が間に合わなかった方は、その旨事務局

（taniguchi@human.mie-u.ac.jp、担当：谷口）までご連絡ください。論文集は、会費の納入確認後に送付されます。皆さまからの会費は支部会の運営を支えるものですので、お忘れなく納入いただきますようお願いいたします。



会費の納入方法について

納入方法として、下記「ゆうちょ銀行」への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。ゆうちょ口座から通帳かカードでATM振込をご利用いただくと手数料無料となります（ATM送金料金が無料となるサービス期間は現在も継続中）。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費2年分のお支払いをお願いしております。

年会費：一般 2,000 円、学生（大学生以上）1,000 円、高校生以下は無料、
団体 4,000 円、家族 3,000 円

振込先が変わりましたので、ご注意ください！

＜ゆうちょ銀行からお振込みの場合＞

記号：12120-2 番号：73385891

名前：日本陸水学会東海支部会

＜他の金融機関からお振込みの場合＞

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：二一八（読み ニイチハチ） 店番：218

預金種目：普通預金 口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）：ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

入会および退会の手続きについて

総会で、入退会の手続きを以下のようにルール化することが確認されました。

■ 入会手続き

①当会の HP にある入会申込書に必要事項を記入

②申込先は会長宛て※とする（その後、担当幹事へ情報を共有）

■ 退会手続き

①退会する旨、会長宛て※に連絡（その後、担当幹事へ情報を共有）

3 月は学生の方が卒業されるので、教員の方は特にご配慮お願いします。

※2015 年は、谷口智雅会長（taniguchi@human.mie-u.ac.jp）まで

（編集後記）

みなさま、お待たせしました。 陸の水ニュースレターをお届けします。

今朝、佐鳴湖西岸道路を歩いて自転車通勤してきましたが、夏休みなのにタモや釣り竿を持った子どもの姿が見当たりません！ 池があって、安全な水辺があって、家から近くてトイレもあって、いうことなしなのに。そういえば、山間部に行っても川ガキをあまり見ませんね。暑いからだろうって？ いえいえ、浜松はそんなに暑くはないのですが。せめて、サマースクールで一人でも川ガキを養成しなくては。浜松の夏は、蟬食べて、ウシガエル食べて、いろいろイベント目白押しです!!!（戸田 三津夫）